

倉敷市立大高小学校 いじめ防止基本方針

いじめに関する現状と課題

- 本校は市内屈指の大規模校であり、各学年5～6クラスで、学級の人数も多く、様々な関係を築くことができる一方で、同学年でも名前が分からない児童もいる。児童は優しく、様々な個性を受け入れ他者に寛容であるが、他者への関心が希薄な部分もある。また、コミュニケーション力の低下や言葉の乱れ等から、人間関係のトラブルが起こることもある。いじめについては、「いじめ見逃しゼロ」を合言葉に、いじめに発展するかもしれないという意識で児童をよく観察し、積極的な認知と速やかな解消に努めたい。
- 現在、生徒指導主事を中心にいじめ問題への対応を行っているが、未然防止・早期発見・早期解決の取組をより強く推進するためには、より組織的な取組を行う必要がある。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

- 「いじめ見逃しゼロ」を合言葉に、いじめ問題への積極的な対応を行う。
- 組織的な取組を推進するため、いじめ対策委員会のメンバーがそれぞれの立場から実効的ないじめ問題の解決策について考え、委員会で決定した取組を全職員で行う。また、児童の意識調査や人間関係の把握を行い、その結果を基に校内研修等を実施し、良好な人間関係を育む教育活動に生かしていく。
- いじめの未然防止については、児童一人ひとりの居場所がある学級経営を基本とした上で、児童の主体的な活動を進めるとともに、誰もが活躍できる機会を設けることで、自己有用感や充実感を感じられる学校づくりを進める。
- いじめの早期発見のためにアンケート等を実施し、教育相談週間との連携を取りやすい実施時期の工夫を行うとともに、得られた情報を教職員間で共有を図る。

<重点となる取組>

- 年3回の教育相談において、児童の悩みや思いを細かく把握し、トラブルを生まない良好な人間関係を築いていこうとする意識の高揚を図る。
- いじめを考える週間や人権週間で、いじめについて考えたり、仲間作りを深めたりする取組を行い、いじめを生まない環境づくりを進める。

